

# 平成30年度 第1回安城市民ギャラリー運営委員会〈議事録〉

平成30年5月23日（水）

午後3時30分から午後5時まで  
安城市民ギャラリー 会議室

出席：石川委員、丸山委員、杉浦直委員、近藤委員、香村委員、加藤委員  
杉山教育長、大見部長、鈴木課長、峯村係長、澤原専門主査、山本主事、  
荒木社会教育指導員  
(指定管理者) 杉浦由、山口、早川

(敬称略)

## 市民憲章唱和

山本	<p>皆様こんにちは。お忙しい中、定刻までにお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>私は本日の進行役を務めます、文化振興課芸術文化係の山本と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>運営委員会の開催に先立ち、安城市民憲章の唱和を行いますので、委員の皆様のご起立をお願いします。それでは、私が「私たちは、」と読み出しますので、後に続いてご唱和をお願いします。</p>
	(市民憲章唱和)
山本	ありがとうございました。ご着席ください。

## 辞令交付

山本	<p>ただ今から、安城市民ギャラリー運営委員会を開催します。はじめに、辞令交付を行います。安城市民ギャラリーの管理及び運営に関する規則第24条で、「安城市民ギャラリー運営委員会の委員は、6名以内とし、展示室利用者、美術又は文化に関する団体の代表者、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。」となっていますので、これに従いまして、運営委員を委嘱させていただきます。</p> <p>今年度、前任の委員のうち3名の方の任期満了を受けまして、新たな委員を委嘱することとなりましたのでご紹介します。再任の委員と合わせて、資料の表紙の裏面1ページの委員名簿をご覧ください。1人目が石川清幸さん、部門は洋画です。2人目が香村愛子さん、部門は日本画です。3人目が加藤伴子さん、部門は染色です。今年度より2年間、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、委員を代表して石川委員に、教育長から委嘱辞令を交付させていただきます。石川委員はその場でご起立ください。なお、その他の委員の委嘱辞令につきま</p>
----	--

	しては、机の上に置かせていただきましたので、ご確認をお願いいたします。それでは、教育長お願いします。
杉山	(交付)
山本	ありがとうございました。石川委員は席へお戻りください。

#### 人事異動報告

山本	続きまして、人事異動の報告をさせていただきます。
鈴木	それでは、芸術文化系の人事異動についてご紹介します。岩井主査が障害福祉課へ異動となり、澤原専門主査が市民安全課から異動してまいりました。
澤原	よろしくをお願いいたします。
鈴木	系の異動については以上です。
山本	続きまして、指定管理者「安祥文化のさと地域運営共同体」より紹介があります。
杉浦由	指定管理者は1人増員となり、事業マネージャーとして早川が配属されました。
早川	よろしくをお願いいたします。

#### 1 あいさつ

山本	それでは「1 あいさつ」に移ります。教育長よりごあいさつを申し上げます。
杉山	<p>皆様こんにちは。教育長の杉山です。本日はご多用の中、本委員会にお集まりいただき誠にありがとうございます。冒頭に司会者からお話したように、今回3名の方に新たに委員をお願いすることとなりました。再任の3名の方を含め6名の委員の皆様、2年間よろしくをお願いいたします。</p> <p>昨年度の市民ギャラリーの利用状況を振り返ると、15万8千人あまりの方に入館していただき、これは対前年比6千人増となります。28年度から導入された指定管理者制度によって企画展や講座、催事関係などで新たな事業も加わる中、特に昨年は9月にナイトミュージアムの実施により来場者が増加したことも考えられます。</p> <p>展示については、昨年度は「穏やかなまなざし 杉浦桂子・日本画の魅力」を開催し、杉浦桂子氏が描いてこられた人物像を中心とした日本画の大作40点を展示しました。残念ながら12月末に杉浦先生は他界されましたが、多くの素晴らしい作品を残されました。また、市民協働課と協力して実施した、日本・デンマーク外交関係樹立150周年を記念してのハンス・クリスチャン・アンデルセン展では、16日間で1,255人と有料展示としては多くの来場者でした。</p> <p>名古屋画廊の協力で今年の1月から2月に開催した「明治・大正・昭和 愛知の洋画家たち」では、愛知の洋画壇を築いた著名な作家の貴重な作品を展示しました。</p> <p>今年度については、お手元のチラシの通り、6月から7月にかけて「瀬畑亮 セロテープアート®展」を計画しています。安城市にニチバン工場があることなどが縁</p>

	<p>で、ニチバン株式会社の協賛を受けて実施します。100kgを越える大作も展示されるということで、新進気鋭の瀬畑亮氏のセロテープアートの世界をお楽しみいただけます。</p> <p>市民ギャラリーは、指定管理者制度を導入し3年目を迎えます。昨年度に引き続き、指定管理者と市職員とが協調し事業に取り組み、利用者の皆様に満足いただける施設として推進してまいります。</p> <p>最後に、市民ギャラリー運営委員会はギャラリーの適正かつ円滑な運営を行うために、利用者、美術または文化に関する団体の代表者、学識経験者、それぞれの立場からのご意見をお聞きする場ですので、市民の方に利用しやすく、市民の文化の向上に寄与できるよう、皆様のご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。</p>
--	--

## 2 会長、副会長の選出

山本	<p>続きます「2 会長、副会長の選出」に移ります。安城市民ギャラリーの管理及び運営に関する規則第25条に、委員会に会長及び副会長を置くことが規定されておりますので、このことについてご意見をいただきたいと思っております。</p>
近藤	<p>会長は石川委員、副会長は丸山委員に受けていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
山本	<p>ありがとうございます。近藤委員からご提案がありましたが、いかがでしょうか。</p>
全員	<p>(賛同)</p>
山本	<p>それでは皆様のご賛同がありましたので、石川委員に会長を、丸山委員に副会長をお願いいたします。それでは恐れ入りますが、両委員は前の会長席、副会長席への移動をお願いいたします。</p>
	<p>(移動)</p>
山本	<p>それでは、会長になられました石川委員から一言ごあいさつをいただきたいと思っております。</p>
石川	<p>皆様こんにちは。昨年、安城文化協会副会長・美術部門担当に選任されたところで、市民ギャラリー等での会議も多く、少しどぎまぎしています。会長という職はとても荷が重いわけですが、丸山先生をはじめ皆様の力を借りながら務めていきたいと思っております。この市民ギャラリーは、安城市の文化の中核で、これからの文化を発展させていくための重要な基地です。その運営に関わりを持てることは自分にとってもありがたいことです。どうかご協力をお願いし、無事2年間務めたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
山本	<p>ありがとうございました。</p>

### 3 協議事項

#### (1) 平成29年度市民ギャラリー利用状況について

山本	<p>それでは「3 協議事項」に入させていただきます。会議の進行は、規則第25条第2項に「会長は会務を総理し、会議の議長となる。」とありますので、石川会長に進行をお願いします。</p>
石川	<p>それでは「(1) 平成29年度市民ギャラリー利用状況について」、事務局から説明をお願いします。</p>
杉浦由	<p>2ページをご覧ください。平成29年度の展示室Cの利用状況は95%でした。対前年比で、C室を除いて全室が100%を超えており、利用の増加が伺えます。C室は、平成27年度から28年度への増加数が8,250名です。この年に愛知県の移動美術館「水のある風景」「モバイル・トリエンナーレ」を開催したことにより一般利用者が増加しました。平成29年度は9月に新規事業としてナイトミュージアムを実施し、6日間で6,481人の入場がありました。平成29年度の創作実習室の利用状況は3,327人、対前年比では97%と、昨年度とほぼ同様の数字です。平成27年度と比較しての増加理由は、指定管理者による講座を追加したこと、安祥文化のさとまつりでエントランスにて書のパフォーマンスを行ったこと、展示に関連してエントランスにてコンサートを行ったことなどがあります。また、平成29年度は利用団体数も77団体に増加しました。昨年度より6団体増加している理由としては、文化センターの改修により利用者がギャラリーに流れてきたこと、指定管理者が実施した自主企画展による新規の利用団体の獲得があります。これらにより、ギャラリーの入館者数が70,171名、対前年比で116%、9,540人増加しました。</p> <p>次ページをご覧ください。各展示室の利用可能な週、日数における利用率です。平成29年度は、28年度に比べ利用団体数が増加しました。それにより、週の利用率が7%増加し、日数としては4%増加しました。平成30年度は前後期合わせて66団体の予約が入っています。また、すでに平成31年度の利用予約も始まっており、平成30年度前期の4～9月のA室の利用率は100%です。C・D・E室の利用率も70%と過去に比べ多くなっています。セロテープアート展や指定管理者が実施する企画展などが含まれており、平成30年度前期の利用率は高くなっています。平成31年度前期の利用率も現時点では好調で、週の利用率はA室で92%、B室で88%です。次ページをご覧ください。4～5ページに平成29年度の利用状況一覧が、6～7ページに今年度の利用予約状況一覧が掲載されています。</p>
石川	<p>何かご質問等がありますか。</p>
近藤	<p>前の会議で展示室Cの利用が少ないという話をしましたが、平成29年度と30年度を見ると、前より大分C室の利用が増えてきたようで、良い傾向だと思います。ガ</p>

	ラスケースがあり使いにくい面もありますが、企画展に加えて沢山のグループや団体に使ってもらいたいと思います。
杉浦直	C室について、昨年度の前半はあまり使われておらず、後半も若干空きがあります。今年では、特に空いているのは12～3月です。空けておくのはもったいないので、例えば美術大学などに無料で貸し出すのはどうでしょうか。将来的に、そこで展示をした人たちがいつか戻ってくるというか、長期スパンで考えるとそのようなことも1つの案かなと思います。
石川	ありがとうございます。
近藤	使う側としては、ガラスが全面にあるので展示が大変だと思います。空いているなら将来のある人に使ってもらうというのも良いと思いました。市主催の展示が割と多いので、一般の利用者にもC室で展示をやってもらえると良いと思います。
石川	ありがとうございます。無料で貸し出すとか、ガラスの使い勝手を良くするとか、私の意見になりますが壁面だけ利用させても良いとか、方法はいろいろあると思います。引き続きC室をうまく利用できるように検討していきましょう。
峯村	後程ご説明しますが、せっかくお話が出たので。5ページ、市民ギャラリー収蔵品展「墨の美」を平成29年度に開催しました。空いているC室を利用するために指定管理者と共同して取り組んだギャラリー収蔵品展です。また、大学生に貸し出すというお話もありましたが、昨年度の2月27日（火）～3月4日（日）にE室で愛教大の学生中心のガラス作品の展示もありました。これも指定管理者と共同の展示です。
杉浦由	会長からお話があった通り、C室の活用方法を周知することが大切だと思います。今年度は、昨年度に取り組んだ展示の写真を周知できるパンフレットを作り、活用を促していけたらと思います。また、峯村さんからお話があった通り、愛知教育大学の学生の展示でもC室を使いました。パンフレットが作成できたら、愛知教育大学をはじめ県内の大学にご案内に行こうと思います。愛教大の学生は今回初めて来たということでしたが、素敵なギャラリーだと気に入っていただけ、個人でも活用を検討したいというお話もありました。先程の杉浦委員のお話のように、大学生が将来的に帰ってきて使ってもらえるように周知したいと思います。

(2) 平成29年度市民ギャラリー事業報告について

石川	続いて「(2) 平成29年度市民ギャラリー事業報告について」、事務局から説明をお願いします。
峯村	8～10ページの展示についてご説明します。①市民ギャラリー企画展「穏やかなまなざし 杉浦桂子・日本画の魅力」を6月23日（金）～7月8日（土）の14日間でD・E室で開催しました。大作を中心に展示し、入場者は1,852人でした。

	<p>関連事業として、香村先生に講師をお願いし、ワークショップ「日本画で花を描く」を開催し、ギャラリーコンサートや展示説明会も実施しました。</p> <p>②日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 ハンス・クリスチャン・アンデルセン展～あなたのそばにはいつもアンデルセンがいた～、7月27日（木）～8月13日（日）の16日間、C室のガラスケースを使う重要な作品もあったので、1階と3階に分かれてC・D・E室で展示をしました。D・E室は、模型の展示や映像を使った体験型の展示でした。入場者は1,255人でした。この展示は市民協働課が担当、文化振興課が協力という形で行いました。当初はデンパークで開催するお話がありましたが、アンデルセンの切り絵など重要な作品をデンマークの博物館からお借りするため、展示施設でやらなければいけないということで、市民ギャラリーで開催しました。国内では、埼玉県の狭山市立博物館、神奈川県川崎市民ミュージアム、東京都のスカイツリーにある郵政博物館、安城市民ギャラリーで開催しました。この展示の関連事業として、ギャラリーコンサート、切り絵作家によるワークショップ、マルグレーテ2世女王が映画の中でデコパージュを作っていることに関連してデコパージュ体験を開催しました。</p> <p>③市民ギャラリー企画展「心が見た風景」、9月29日（金）～10月8日（日）の9日間で行いました。ここにいる丸山先生の作品や、福山先生、所先生の作品など収蔵品12点と、小中学生の作品87点を合わせた展示で、1,884人の入場者がありました。</p> <p>④第74回安美展、前期10月20日（金）～10月29日（日）と後期11月3日（金・祝）～11月12日（日）のそれぞれ9日間実施しました。494点の出品があり、前年の477点に比べて17点増加しました。</p> <p>⑤市民ギャラリー企画展 安城市制65周年記念事業「明治・大正・昭和 愛知の洋画家たち」、1月27日（土）～2月24日（土）の26日間、D・E室で行いました。名古屋画廊から多くの作品をお借りしました。大正期の大澤鉦一郎ら愛美社の画家や、鬼頭鍋三郎らサンサシオンの画家などの貴重な作品もありました。入場者は2,006名でした。関連行事として、ギャラリーコンサートがありました。ギャラリートークは杉浦尚史先生と赤塚一三先生に行っていただきました。杉浦尚史先生は安城市在住、名古屋芸大の教授で春陽会に所属しています。赤塚一三先生は写実画壇に所属しています。愛知県芸を卒業し、名古屋芸大の講師も務めています。また、近藤義行委員に、展示作品をクレパスで模写するワークショップを行っていただきました。</p>
杉浦由	指定管理者の自主企画展示についてご説明します。
山口	①「世界の茶と茶具展～茶は世界を結ぶ～」、D・E室を使ってアジアの民俗文化に関わる展示を行いました。松下智さんは、安城農林高校と西尾高校で教鞭をとら

	<p>れ、退職前後の50年にわたりアジアを中心にお茶の起源を訪ね、茶具などを収集されています。現在、袋井市の浅羽町役場の議場跡に全てが展示されていますが、いろいろご縁が巡って、その収集品の一部を昨年7月12日（水）～7月17日（月・祝）にD・E室で展示しました。袋井市の団体の方、役場の方などのご協力により、実施に辿り着けました。今1階で行っている何有展の団体の皆様も松下先生とご縁があり、それによって袋井市との交流が始まっています。今後もこのように様々な自治体や団体と交流を持ちながら、展示室の利用、行事などを一緒にやっていけたらと思います。入場者数は427名で、1日平均71名。安城市の皆様にも沢山お越しいただきましたが、近隣の西尾市や、袋井市、名古屋市など、愛知県下で18市町村、静岡県下で3市町村の方にお越しいただきました。</p>
杉浦由	<p>②「光の切り絵展～光の水族館～」は、市民ギャラリーの全館を利用し、ナイトミュージアム開催期間中に実施した展示です。全館に加え、エントランスホール、また野外幻灯と題して市民ギャラリーの壁面と玄関前に大きなプロジェクターで光のアートを展示しました。C室でも、子どもの環境デザイナーの牧野さんという有名な木の作家さんのおもちゃや、市内の作家さんの作品を展示しました。夢あかりということで、灯りが灯る木の作品を中心にガラスケースで展示し、ガラスケースの活用もアピールしました。C室の床面には、南部保育園とゆたか保育園の園児約150名に参加いただき、園児たちが夏の絵を描いた紙袋に小さな灯りを入れた作品を展示しました。ナイトミュージアムは夜8時まで開館し、9月2日（土）、3日（日）には、城址公園内でマルシェ、石舞台の上で演奏会も開催しました。ギャラリーのエントランスでは、安城学園の合唱部に光のアートとコラボしたハンドベルの演奏と合唱をお願いし、大変好評でした。全て合わせた来場者数が6,481名、1日平均1,080名でした。</p>
山口	<p>③「懐かしの“車” 写生&amp;写真作品展」、2回目の開催です。三菱自動車やトヨタ自動車のカーデザイナーからなる4人会さんがA・B室で展示をしていて、そこでご挨拶をして以降親しくなり、代表の石井さんから声を掛けていただき、2回目の実施となりました。愛好家の方々に声を掛けて、昭和30～50年頃、私が小学校低・中学年くらいの頃に走っていた車を、豊田、名古屋、瀬戸などから乗って来ていただき、それを子どもたちが写生し、作品を展示しました。昨年は子どもたちが写生した作品と一緒に写真も展示しました。優秀作品には、市民ギャラリー館長賞、歴史博物館館長賞、車のオーナー賞を授与し、表彰式も期間中に開催しました。参加人数は41人41点。悪天候のため一昨年に比べるとかなり数が減ってしまいましたが、無事に終了できました。展示会場への入場者数は322名でした。</p>
杉浦由	<p>④「愛知教育大学造形文化コースGlass with Intention」を2月27日（火）～3月4日（日）の6日間、展示室Eを活用して実施しました。ガラス研究室所属の6名</p>

	<p>によるガラスオブジェの作品展です。入場数は1日平均37名と少ないですが、大学関係者や若い方、初めて足を運ぶ方が多く、若い方に市民ギャラリーを知っていただく良い機会になったと思います。</p> <p>⑤市民ギャラリー収蔵品展「墨の美」、先程紹介があった通り、3月9日（金）～3月25日（日）の15日間、展示室Cの活用として開催しました。市民ギャラリーで収蔵する作品を中心に展示し、15日間で1,347名と大変多くの入場がありました。</p>
荒木	<p>続いて美術講座について説明します。11ページの真ん中から下です。前期に8講座、後期に7講座を計画・実施しました。</p> <p>まず①②③の銅版画・リトグラフ講座は、継続的な受講者が多く、年々参加者が増えています。各コースの定員確保率にはばらつきがありますが、実際には、午前は午前コースの15人と一日コースの5人、午後は午後コースの15人と一日コースの5人、各20名ずつで活動しますので、そう考えると午前100%、午後85%になります。12・13ページをご覧ください。⑨⑩⑪の後期講座では、同様に考えると定員確保率は、午前110%、午後115%になります。午前、午後ともに定員を上回る受講希望があるのはうれしいことですが、いくつかの課題もあります。これについては、平成30年度の計画でお話しします。</p> <p>④の書道入門では「楷書」を、⑥の日本画では、歴史博物館や埋蔵文化財センターの収蔵品をモチーフにして、というように開講講座自体は例年と同じですが、テーマやモチーフを工夫して取り組んでおり、受講希望者はほぼ定員を満たしています。特に、⑫⑬のデッサン講座は大変人気が高く、スペースの関係で定員までしか受講できないため、抽選で受講者を決めています。ほぼ定員の2倍近い応募があります。予算的な問題もあり、この講座を増やすことはできませんが、このような人気のある講座は大切にしていきたいと思います。</p> <p>また、講座で制作した作品については、版画講座、書道入門講座、日本画講座それぞれで、講座終了後に実習室廊下での展示を行いました。</p>
杉浦由	<p>指定管理者の講座についてです。</p> <p>13ページの下方、①キッズアート体験事業「親子で創造ワーク・和久積み木で恐竜を作ろう!」、対象が幼児向けの講座も開催したいということで、初の試みとして、2歳から小学1年生までの親子を対象に開催しました。参加者集めに苦戦し、定員10組に対して5組の参加でした。和久洋三さんは有名な積み木遊びの方で、参加した親子は大変喜んでいました。和久さんのことをよく知っていて名古屋から参加した親子もいました。</p> <p>②キッズアート体験事業「発泡スチロールで版画に挑戦!」、こちらも同じわくわく創造アトリエにご協力いただき、3歳から小学1年生の子どもを対象に開催しまし</p>



た。定員の確保率は悪く、7名の参加でした。子どもたちの初めての簡単な版画体験として、発泡スチロールをちぎって貼る、ローラーを使う、転写する、という全ての工程に参加いただきました。参加者には非常に好評で、素敵な大きな模造紙の作品が出来上がったので、期間を設けて創作実習室前の廊下に展示をしました。

③季節の1Dayアートレッスン事業、ろうけつ染めの体験としてオリジナルTシャツ作りを開催しました。11名の参加で、平松先生にお世話になり開催しました。中々体験できないものであり非常に好評で、また染め物の講座を開催してほしいという声もありました。

④は先程紹介があった、香村先生の「日本画で花を描く」です。定員10名に対して非常に多くの応募があり、定員を増やし、15名で開催しました。

⑤「ギャラリーコンサート」は、展示に合わせたコンサートで、95名のお客様に入場いただきました。

⑥、⑪、⑬、⑭、⑮はキッズアート体験として、愛知教育大学の幼児教育講座造形研究室のゼミの学生と先生を講師として、大学と連携した工作教室を開催しました。こちらも子ども対象の新たな試みです。最初は定員の確保率が悪いですが、後半になるにつれ多くの応募があり、内容も充実した講座を開催できました。⑥は、絵本「ぞうくんのさんぼ」を読んでゆらゆら揺れる作品を作りました。幼児教育の学生ということで、絵本の読み聞かせからオリジナル作品を作るという流れでした。

⑦～⑩は先程紹介があった企画展「ハンス・クリスチャン・アンデルセン展」の関連事業で、⑦切り絵の体験講座を12名の参加者で開催しました。その後⑧⑨ギャラリーコンサートを2回開催し、それぞれ50名、85名の入場がありました。⑩デコパージュの講座は、午前と午後に分かれて2回開催し、それぞれ12名、11名の参加がありました。

夏休みの⑪「ダンボールで自分だけのミニハウスをつくろう！」は、12名の参加で、愛知教育大学との連携講座です。

16ページをご覧ください。現代の話題のアートの紹介として、⑫3Dアートペンという、ペン先から熱を加えてプラスチックを溶かし出し、空中に絵を描き立体物を作るというものを使った講座を行いました。このペンの開発をしている3Doodler

(スリドゥードゥラー)という運営スタッフにご協力いただき開催しました。大変好評で、当日キャンセルがあったため定員割れしていますが、実際は定員以上の応募がありました。

先程紹介した愛教大との連携講座、⑬「木のからくりおもちゃをつくろう」は17名、⑭「ハロウィンボックスをつくろう」は9名、⑮「お気に入りの写真を木で飾ろう」は3名の参加がありました。

「心が見た風景」の関連事業として⑯「あなたの心は何色？水彩で楽しく描いてみよう」、近藤先生に講師を務めていただき、定員いっぱいで開催しました。

	<p>⑰「大人の切り絵レッスン」、10月22日（日）に開催し、定員いっぱいの15名で行いました。</p> <p>この後も各展示の関連事業としての講座開催で、⑱「伝統的な美しさ～伊勢型紙で切り絵をつくる～」を10月28日（土）15名で開催しました。⑲ギャラリーコンサートは1月28日（日）開催で90名のご来場、⑳「明治・大正・昭和 愛知の洋画家たち」の関連事業「名作を模写しよう」は、近藤委員に講師を務めていただき、参加者18名で、大変好評のうちに終了しました。</p> <p>最後に、㉑2月23日（金）の「日本画で富士山を描く」、こちらも香村先生にご担当いただき、定員以上の応募があったので参加者を増やし15名で開催しました。</p>
峯村	18～24ページは展示や講座の様子の写真です。
石川	ご説明ありがとうございました。何かご意見等がありますか。
近藤	光の切り絵展の入場者が6,481名、この数字はすごいと思いました。小さな子どもさんも多かったのでしょうか。
杉浦由	来場者の年齢層は幅が広く、一人で来た方がまた週末にご家族やお孫さんを連れて来るような形で、リピーターも大変多かったです。新聞で取り上げられた回数も多く、西三河版、県内版、また尾張旭の作家さんだったので尾張版でも大きく記事の掲載があり、非常に広域からお客様がお越しになりました。
近藤	一般的な展示や講座とは単位が違いますね。
杉浦由	そうですね。主催側も予想をはるかに上回る人数だったのでびっくりしました。
近藤	来場者が1日1,000人ということは、通常1つの会で1,000人くらいなので（1日で1つの展覧会くらいの入場があったということですね）。
杉浦由	そうですね。6日間で1,000人くらいが平均なので。
近藤	ここは若い人があまり来ないと思うので、若い人に来て楽しんでもらうというのを考えると良いと思います。
杉浦由	そうですね。今回は、夏休みに「光の水族館」というテーマも、子どもたちに合っていて良かったのだと思います。
丸山	子ども向けのキッズアートの講座が多くなってきて、将来のある子どもたちに夢のある講座で良いなあと思います。やはりぱっと見取っつきにくいような講座は1回目だけでは中々成果が出ないと思いますが、それも回数を重ねてやっていると良いと思いますし、中々今まで経験のない講座で良いと思います。新しい講座は取っつきにくいと思うので、受講者募集のときに、前年度の内容を写真などで説明できるようにすると良いかと思います。
峯村	今ちょうど先生からご意見が出たので。美術講座は、このようなプリントと少し拡大したものを掲示して、皆さんにPRしています。
杉浦由	館内の掲示板や受付にも置き、写真と文字で見えるようにしています。

石川	貴重なご意見ありがとうございました。
----	--------------------

(3) 平成30年度市民ギャラリー事業計画について

石川	それでは次に移ります。「(3) 平成30年度市民ギャラリー事業計画について」ご説明をお願いします。
峯村	<p>教育長からもお話があったように、①市民ギャラリー開館15周年記念企画展「アーティスト活動20周年・セロテープ®誕生70周年記念「瀬畑亮 セロテープアート®展2018in安城」を、6月9日(土)～7月7日(土)の25日間で、全館を使って開催します。この展示は、安城にニチバンの工場があることなど色々な縁があり、開催に至りました。最初に話があったのは5年くらい前でしたが、今年が、セロテープが出来て70年目、ニチバンの会社が出来て100年目に当たることなどがあり、色々な周年事業として行うことになりました。先生方にも開会式の招待状等をお渡ししていますが、初日の6月9日(土)には9時30分から開会式、テープカット等を行うので、是非ご参加ください。展示の関連事業としては、ギャラリートーク、ワークショップ、ギャラリーコンサート等があります。特に9日はギャラリートークもコンサートもワークショップもあります。ワークショップは申込制ですが、展示も含めて行うので是非ご覧ください。</p> <p>②市民ギャラリー企画展「人々の暮らし」、こちらは夏休み明けの企画で、9月28日(金)～10月7日(日)の9日間でD・E室を使って、市の収蔵品と学校から募集した作品を展示します。学校側の負担軽減として、今までは作品数を各小中学校3点と決めていましたが、今回は自由応募となりました。それにより出品数がどれくらいになるか不明ですが、出品数に応じて展示を計画することになります。</p> <p>26ページ、③第75回安美展を例年通り行います。変更事項として、通常では表彰式の日は最終日の11月18日(日)ですが、今回は文化センターのリニューアル事業の関係で11月11日(日)に予定しています。</p> <p>④市民ギャラリー企画展「素材と造形美の融合」、3月1日(金)～3月16日(土)の14日間、D・E室で予定しています。主に素材を生かしながら表現された造形作品をテーマとした展示で、立体や工芸作品が中心になりますが、絵画にも素材にこだわった作品があるので、多岐にわたる展示になると思います。</p>
杉浦由	<p>続いて、指定管理者の自主企画展示を紹介します。①「猪野みのり創作人形教室展」と題し、C室を活用して、7月11日(水)～7月28日(土)の17日間で、安城市在住の創作人形作家・猪野みのり氏と創作人形教室の生徒さんの作品を展示します。こちらは昨年丈山苑でも開催しており、大変好評だったためご紹介をいただき展示に至りました。7月21日(土)～9月2日(日)に歴史博物館で特別展「人形</p>

	<p>師 辻村寿三郎」展の開催もあるので、両方で集客が見込めるように関連した展示と しています。</p> <p>②「夢もふくらむバルーンランド」を7月31日（火）～8月12日（日）の12 日間で開催します。ナイトミュージアムは8月10日（金）～12（日）を予定して おり、今年度は夜間開館を9時までとしています。今回も幅広い年齢層の方に来てい ただきたいので、新たな試みとして、名古屋の「ニコフイーバルーンパーク」という 会社でバルーンの販売やワークショップを行い、世界的なバルーンドレスのコレクシ ョン展でも優勝されている作家の山下さんに関わっていただき、見て、触れて、また 今「インスタ映え」が話題ですが撮影スポットも沢山用意して、多くの方が楽しめる 展示を企画しています。展示室C・D・Eで予定しています。</p> <p>③は、平成29年度事業報告でもご紹介した「懐かしの“車” 写生&amp;写真作品展」 です。日程は未定ですが、今年度も開催する予定です。</p> <p>④木のおもちゃ展と題し、平成31年1月25日（金）～2月24日（日）、全館 を利用して木のおもちゃの展示を予定しています。</p>
荒木	<p>美術講座については、平成30年度もおおよそ29年度と同じような講座を実施す る予定です。ただ、版画講座については、報告でも触れたように、年々受講希望者が 増え、定員を上回るようになってきました。定員を超えた場合、本来なら抽選をする ところですが、版画講座は開講してから十数年になり、継続的な受講者が多く、そこ に新しい方が加わるという形で増えてきたので、昨年までの方はほとんどが継続して 受講したいと強く希望されています。また、版画は当館のような機械がないと制作で きないこともあり、抽選に漏れてしまうと作品が作れなくなるので何とかならない か、というご希望があります。そこで、昨年度には受講者へのアンケート調査を実施 し対応策を検討しました。その結果、本年度の後期講座から1日コースをやめ、先生 のご指導がそれほどなくても自分の力で制作できる経験者を中心とした特別コース を、別の日に実施しようと考えています。午前・午後の半日コースは初心者の方でも 受講できる、先生に指導していただく講座として従来通り行います。なお、前期講座 はすでに従来通り始まっていますが、受講希望者にコース変更等お願いして、午前・ 午後とも、定員を1名超える状態で実施しています。</p> <p>また、平成28・29年度の版画講座受講生の作品展を7月17日（火）～22日 （日）の6日間、ギャラリー3階の展示室を使って実施する予定です。</p>
杉浦由	<p>指定管理者の講座です。27ページの一番下、①季節のアートレッスン「似顔絵イ ラスト体験講座（中級編）」、こちらはすでに終了しています。以前に初級編を開催 したので、今回中級編を開催しました。定員いっぱいの10名で開催しました。</p> <p>②季節のアートレッスン「型紙作りから染色まで～型染めの技を学ぶ～」、委員の 加藤先生にお世話になり、定員10名で、先日5月20日に第1回目が開催されまし</p>

	<p>た。初の試みで全3回の連続講座ですが、1回目は大変良い雰囲気で開催できたので、最後まで皆さんに楽しんでご参加いただければと進めています。</p> <p>③④は先程展示の関連事業として紹介しました。③は開会式の際の「ギャラリーコンサート」で、金管五重奏での演奏です。そのあと、④7月7日（土）の展示の最終日に合わせた「ギャラリーコンサート」、Quartet HAMABE（カルテット・ハマーベ）という演奏者さんたちの60分間のコンサートです。</p> <p>⑤は先程の人形展の関連で、7月14日（土）に「木目込人形づくり～明年の干支を作る～」を予定しています。市内の先生による講座です。</p> <p>⑥キッズアートスペースということで、先程委員からもお話がありましたが、対象年齢を下げた子ども向けの絵画教室として、わくわく創造アトリエの講師による「アートワーク絵画～管楽器・ホルンを描こう～」の開催を予定しています。その他も随時企画中です。</p>
石川	ありがとうございました。ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。
近藤	版画講座ですが、これは長く継続して受講している方が独占のような形で、初心者向けでないものを下半期に開催するというのでしょうか。
荒木	はい。従来の午前・午後コースを初心者中心のコースにして、継続してやりたいという方は別のコースに動いていただく形です。
近藤	この会とは別のことですが、熱心にやってくださっている方には安美展に出品してもらえると良いと思います。
丸山	銅版画・リトグラフになると、講座がないと自分では道具や機械を用意できないですもんね。興味を持ってもらえたら、その後のことも考えていかないと。
荒木	近隣市でも銅版画・リトグラフの講座はあまりないですから。
近藤	安美展に向いてもらえると嬉しいです。せっかく長くやったださる方がいるなら、同じ場所での公募展に出品出来るので、是非出品していただきたい。前は版画を出品している方もいましたが、最近は全然で版画はゼロになってきている。せっかくここで講座をやっているのに、全然ないというのは寂しいです。
丸山	今講座で制作している作品の大きさは安美展の規格内には入りますか。
峯村	大きい板で作品を作ると規格内に入ります。小さい方の板では入りません。一応板は用意して安美展にも挑戦できるようにしています。
丸山	そうなるとういことです。
近藤	せっかく長くやっているなら是非。他にも、美術系のことが単発で終わってしまうのは寂しい。それが動機になって地元の作家が育ってくれる、そうなるとうい講座をやる意味があるのかなと思います。難しいところもあろうかとは思いますが、そのようになると良いと思いました。

石川	機会があれば、講座の中でこのような方向性を話していただけたらと思います。その他はよろしいでしょうか。
----	--

(4) その他

石川	それでは「(4) その他」の説明をお願いします。
杉浦由	お手元に、緑色の利用の手引きと、薄い緑色のA4用紙の利用のお願い、2つの資料を用意しました。まず利用のお願いについて、展示利用時に特にお願いする事項を記載しています。こちらへの追加事項をご提案したいと思います。4番目に「展示室内での墨の使用はできません。受付にて墨を使用する場合は足元に養生シートをご用意ください。」と書かれていますが、こちらの内容を「展示室内での墨の使用はできません。受付にて墨を使用する場合はギャラリー受付にてお申し出ください。足元に敷く養生シートをご用意いたします。」として、事務局側でシートを用意するので申請してくださいという内容に変更したいと考えています。
峯村	今の説明のように養生シートを使う発端になったのは、以前水墨画のグループが受付の芳名の際に筆を落とされて墨が床に点々とついてしまったことです。
丸山	書のグループではなかったですか。
杉浦由	書のグループもあったと思いますが、下に落ちて墨が残ってしまったのは確か水墨画のグループだったかと思います。
丸山	私がお聞きしたのは書の方でした。
山口	書の方では、下に落ちた墨を踏んで足跡がついてしまい、皆で掃除したということがありました。この件を話している中で墨汁の使用を禁止することも出ましたが、書のグループに伺いを立てたところ、遠方から来る書家の先生に筆ペンを渡すという失礼なことではできないということで、峯村さんにもご相談する中で出てきた折衷案です。下に敷くということ自体が失礼だという発想も出ましたが、それと筆ペンとどちらがよいか話をする中で、このようになりました。
丸山	使用禁止というのは書の先生がだいぶ気にしていましたもんね。
峯村	そうですね。そういうわけで、使用禁止ではなく、使用して良いですが養生シートを下に敷く、その養生シートをこちらで用意するという形でいきたいと思います。
丸山	ついでに利用の件で。この間文化協会で文協祭をやりました。ワイヤーを掛けてあるフックを動かすときに、今までは長い伸縮自由の棒を使っていたのですが、この間は棒の使用はいけないと言われました。その理由は何かあるのですか。全て展示し終えてから作品の間隔調整に使いたいのですが。
峯村	使って良いと思うのですが。
丸山	使ってはいけなくなると、最後にもう一回台車に乗って調節しなければいけない。年配者が多い中では大変です。

山口	そういう事実があったのかどうか、管理人に確認しておきます。
丸山	一度聞いておいてください。後期は一切棒を使わずに展示をしましたが、台車が2つしかないので、いくつかの団体が入って作業をするとやりにくい部分があります。
石川	その棒は備え付けの備品ですか。
丸山	そうです。それでも使用禁止と言われたものですから。
峯村	何で言ったのだらう。使って良いと思います。
丸山	そうですね。動かすときに叩くから傷つくということがあったのかな。
杉浦由	それを危惧して言ったのかもしれませんが、ご不便をおかけして申し訳ありませんでした。
峯村	掛けるときと外すときは台車に乗って行っていただきますが、掛けた後の多少の微調整は棒でやるのが通常です。注意しておきます。申し訳ありませんでした。
杉浦由	それでは、もう一つ追加の事項についてです。利用の手引きの4ページの(1)に仮申し込みの記載がありますが、3番として、今現在は「仮申し込み受付期間以後の申し込みは、随時受け付けます。」の1文だけですが、追記事項の案として「仮申し込み受付後、続けて2回キャンセルを行った場合は、次年度の利用は、仮申し込み受付以後の申し込みとなります。」というものと、4番として、「仮申し込み受付後、キャンセルを行った場合は、その会場希望抽選に参加した他の団体に抽選の順に連絡をさせていただきます。」というものの追記を検討しています。
峯村	これについては、ある団体が仮申し込み後に4年連続でキャンセルをしており、理由を聞くと、安城と刈谷を両方抑えておいて、刈谷が取れると安城をキャンセルしていたとのこと。特にこの団体は利用率の高いA・B室を希望されていたので、他の団体にも迷惑がかかると思い、クレームなどを懸念して今の2文を記載したいと思います。このような事を続けて2回された場合、次年度の利用はできないというわけではなく、仮申し込みでの受付はできませんが、それ以後で空いているところを利用することはできます。4番は、仮申し込み後にキャンセルを行った場合は、抽選漏れになっている団体に抽選の順番沿ってキャンセルが出たことをご連絡していくということです。皆様にご理解いただければと思います。
山口	私が特にまずいなと思ったのは、刈谷の総合文化センターが取れた翌日に、自分の仲良しの団体に「私たちは刈谷が通ったから、安城のA・B室が空くよ。」と連絡をして、その団体が予約をしたことです。それはさすがに良くないなと。
峯村	団体によってはこの日にちしか開催できないため2施設予約することはあるかもしれませんが、これだけ連続してあると他の団体にあまりにも迷惑が掛かるので、このようにしました。
石川	ありがとうございます。他に何かありますか。なければ協議事項はこれで終了します。ありがとうございます。

#### 4 連絡事項

山本	ありがとうございました。「4 連絡事項」に移ります。次回の運営委員会は、11月を予定しています。日程等が決定したらご案内します。よろしくお願いいたします。
峯村	お手元のチラシをご覧ください。先程も少しご説明したように、6月9日（土）は9時30分からの開会式に是非ご参加いただければと思います。 4月から9月の催し物案内も出来ているのでまたご覧ください。お願いします。
山本	慎重にご協議いただきありがとうございました。これをもちまして、安城市民ギャラリー運営委員会を終了します。ありがとうございました。